

### 知識

- 事例1 (4年) 記述、発言
- 事例2 (1年) 観察、発言、記述
- 事例3 (5年) 発言、記述
- 事例4 (3年) 観察、発言、記述

### 技能

- 事例1 (4年) 聴取
- 事例2 (1年) 観察、発言、聴取
- 事例3 (5年) 聴取、記述

## 指導と評価の一体化に向けて

# 児童の思考・判断のよりどころとなる 主な音楽を形づくっている要素の精選

・〔共通事項〕アは、思考力、判断力、表現力等に関する内容を示しており、〔共通事項〕アと各領域や分野の事項アは、一体的に捉えるべき内容である。〔第1学年及び第2学年の例〕

歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞
音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え⇒			
⇒歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。	⇒器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。	⇒音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。	⇒鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

〔共通事項〕事項アについては、  
全ての題材で必ず位置付けなければ学習として  
成立しない

### 〔共通事項〕

- ・「A表現」及び「B表現」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること
- ・表現及び鑑賞の活動と切り離して単独で指導するものではないことに十分留意する必要がある

**思考・判断・表現**

・音楽を形づくっている要素【音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など】を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもっている。



**思考・判断・表現**

・旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもっている。

どの子どもが、「旋律」を思考・判断のよりどころとする。

# 学びの姿を具体的にえがく



## 思考・判断・表現

- 事例1 (4年) 記述、発言、聴取
- 事例2 (1年) 記述、聴取、観察、発言
- 事例3 (5年) 発言、記述
- 事例4 (3年) 観察、発言、記述

記述、発言が中心となっている。  
補うために、  
観察、聴取を組み合わせていく。

## 指導と評価の一体化に向けて

# 題材を貫く学習内容の設定

児童に興味・関心をもたせたい事柄を明らかにする

主体的に学習に取り組む態度

・【その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりできるようにするために必要となる、取扱い教材曲の特徴や学習内容など、興味関心を持たせたい事柄】に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

主体的に学習に取り組む態度

・曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

児童に興味・関心をもたせたい事柄

⇒児童がどんな学習に向かって粘り強く、調整をしながら学んでいくのか

学びの姿を具体的にえがく

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①<b>技</b> 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p> <p>②<b>知</b> 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱、器楽)</p> <p>③<b>知技</b> リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p>	<p><b>思①</b> 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p> <p><b>思②</b> 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p><b>態①</b> 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱、器楽)</p>

評価の計画を立てる

4 指導と評価の計画 (5時間)

※ 丸数字→全員の学習状況を記録に残す場面

時間	①おらいい ○学習内容・学習活動	知・技	思	態
第1時	<p>◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。</p> <p>○「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を聴いて感じたことを発表する。</li> <li>・歌詞を聴んだり、とんびが空を舞う写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。</li> <li>・リズムや音程に気を付けて、歌詞を見ながら歌唱する。</li> <li>・曲の特徴的なところをワークシートに書いて発表する。</li> </ul> <p>【児童の記録例】</p> <p>・ビヨロのころは、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を書いて面白。</p> <p>・歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。</p> <p>○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3フレーズ(9～12小節)の「ビヨロ」の部分について、とんびが鳴きながら飛ぶ様子や、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。</li> </ul> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とんびが鳴きながら飛んでいて、表でいて様子を書いたから、前半と後半は7で後半2小節は6で歌おう。</li> </ul>			
第2時	<p>◎第1時で学習した表現を生かして、全員で「とんび」を歌う。</p> <p>○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、第3フレーズの「ビヨロ」の部分について表現を工夫して歌う。</li> <li>・歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。</li> <li>・歌いながら、第1、2、4フレーズの旋律の反復や、第3フレーズでの変化について気付いたことをワークシートに書く(第1フレーズ:1～4小節/第2フレーズ:5～8小節/第4フレーズ:13～16小節)。</li> </ul> <p>【児童の記録例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1節目と2節目は音が同じで、3節目は全然違う。</li> <li>・1節目と2節目の旋律の動きが似ているけれど、3節目は全然違う。</li> </ul> <p>○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを書いて表現を工夫し、思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1、2、4フレーズと第3フレーズの動きの違いに着目して考えたり歌ったりする。</li> </ul> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2、4節目では旋律の音が上がる時クレッシェンド、下がる時デクレッシェンドすると、とんびがゆったりと飛んでいる感じがわかる。</li> <li>・3節目は他の部分と違って、とんびが飛んでいる様子を表現するように、速くまでくような歌い方で歌おうとしよう。</li> </ul> <p>○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。</p>			
第3時	<p>◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。</p> <p>○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴のまとまりを捉えて体動かしたり、楽譜を見ながら指名唱をしたりする。</li> <li>・指名を聴いたり楽譜を見たりしながら、リコーダーで旋律を演奏する。</li> </ul> <p>◎音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運指に気を付けて曲全体を演奏する。</li> <li>・音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。</li> </ul>			
第4時	<p>◎「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。</p> <p>○「とんび」での学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気づきを促める。</p> <p>【児童の記録例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1、2節目は上から下へ音が下がっていくところが「とんび」に似ている。</li> <li>・3節目は生き生きとした感じがわかるように、タンギングを変えてみよう。</li> <li>・第3フレーズ(17～24小節)について、曲想の変化を捉えて表現を工夫する。</li> </ul> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2節目までは、4小節の旋律のまとまりをなめらかに吹きたい。</li> <li>・3節目は生き生きとした感じがわかるように、タンギングを変えてみよう。</li> </ul>			
第5時	<p>◎前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2フレーズ(9～16小節)が再び現れるという反復など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。</li> </ul> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2、4節目はなめらかに吹けるように、息の強い方に気を付けて演奏しよう。</li> <li>・3節目ははむような感じがしたら、他の部分よりもタンギングをはっきりさせて吹けるようにしよう。</li> <li>・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。</li> </ul> <p>○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫した点を紹介しながら発表する。</li> <li>・各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。</li> </ul>			

#### (4) 評価の計画を立てることの重要性

学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠である。その上で、評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするための記録を取るようになる。そのためには、いつ、どのような方法で、児童生徒について観点別学習状況の評価するための記録を取るのかについて、評価の計画を立てることが引き続き大切である。

毎時間児童生徒全員について記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではないことから、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための評価の計画が一層重要になる。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽 文部科学省国立教育政策研究所 p16

33

## 評価の計画

いつ、どのような方法で、児童生徒について観点別学習状況を評価するための記録を取るのかについて、評価の計画を立てることが引き続き大切。

### 評価を残す場面の精選

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽 文部科学省国立教育政策研究所 p16

34

学習指導のねらいが

**児童生徒の学習状況として実現されたか**について、**評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行う**ことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠である。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽 文部科学省国立教育政策研究所 p16

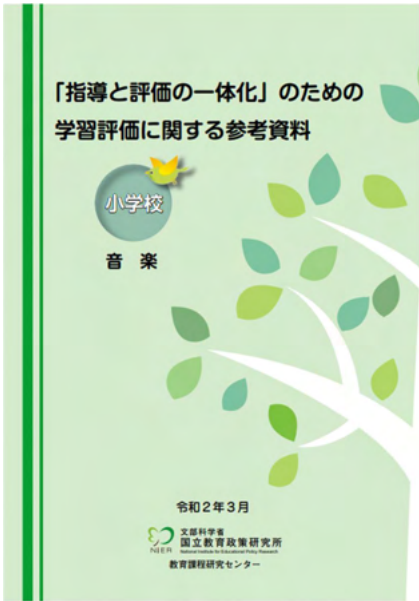
35

学習の**途中段階**において

「努力を要する」状況（C）と判断されそうであっても、最終的に判断することに留意

評価を残す場面

36



主体的に学習に取り組む態度

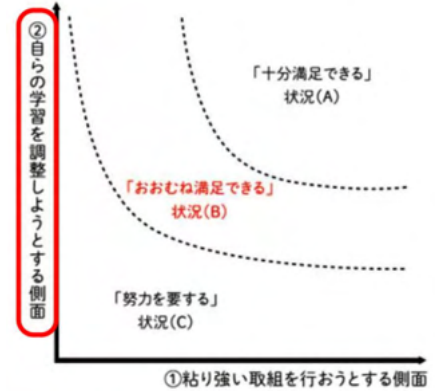


主体的に学習に取り組む態度

①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うとする側面

②①の中で、自らの学習を調整しようとする側面

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかという意志的な側面



**コラム**

「主体的に学習に取り組む態度」は、「関心・意欲・態度」と同じ趣旨ですが…  
～こんなことで評価をしていませんでしたか？～

平成31年1月21日文科科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、学習評価について指摘されている課題として、「関心・意欲・態度」の観点について「学校や教師の状況によっては、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない」ということが指摘されました。これを受け、従来から重視されてきた各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという趣旨が改めて強調されました。

Column

よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する趣旨が改めて強調

主体的に学習に取り組む態度

■めあての確認

どこに着目して学習を進めたらよい、児童自身が見定め、その方向へ自ら学習を調整できるように促す。

■既習内容の活用

これまでの音楽科の学習を振り返らせ、活用できるように促すことは、子供が「学習を調整」する術を得ることにつながる。

■協働的な学習を生かす

- 他の子が学ぶ姿をモデルとして紹介し、自分の学習について見直す機会を得る。

自分の変容を自覚できる場面を設定するなどして、評価方法を工夫するとともに、子供が自らの学習状況を把握して、さらによりよく学ぼうとすることへつながるようにしたい。



学習の調整に向けた取組のプロセスは子ども一人一人の特性がある

一人一人の子どもが、自ら様々な学び方を工夫して行く中で、自分にあった学習の調整の仕方を見いだせるよう、教師は粘り強く見守っていくことも大切

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽 文部科学省国立教育政策研究所 p83

41

特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、**児童生徒が自らの理解状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり、話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面**を単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要である。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」p11

指導と評価の一体化を図るためには、**児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視**し、教師が自らの指導のねらいに応じ、授業での児童生徒の学びを振り返り、**学習や指導の改善に生かしていくこと**が大切である。

43

## ②ICTの効果的な活用について



44